

Press Release

The 5th Fukuoka Asian Art Triennale 2014

第 5 回福岡アジア美術トリエンナーレ 2014

2014/9/6(sat) ~ 11/30(sun)

プレスリリース



未来世界のパノラマ — ほころぶ時代のなかへ Panorama of The NextWorld: Breaking Out into the Future

【開催趣旨】

福岡アジア美術トリエンナーレ（福岡トリエンナーレ）は、アジア美術館の継続的な調査研究や交流事業の成果と蓄積を生かして、3年ごとに、毎回異なるテーマでアジア 21 か国・地域の美術の新傾向を紹介する展覧会として、国内外から高い注目と評価を受けてきました。本展は、絵画、彫刻、インスタレーション、映像などの作品展示を行なうとともに、作家を福岡に招聘して共同制作・ワークショップ・パフォーマンスなどを実施し、福岡市民との交流の場を創り出すものです。

アジア美術館開館 15 周年に開催する第 5 回展は、従来のようにアジア新進作家の紹介を続けるとともに、下記に重点をおき、「福岡初・福岡発」の独自の国際展として福岡市・九州のみならず、東京等国内や国外からの集客をめざします。

- ①日本初紹介の作家（36 作家中 23 作家）を中心に新進作家を選ぶとともに、映像、写真、デザイン、メディア・アート等の領域を積極的に取り込みます。
- ②特別部門を設け、特にめざましい新傾向のある地域・ジャンル等の作品を重点的に紹介します。
- ③福岡アジア美術館の過去のレジデンス事業で紹介した後に国際的に活躍するようになった作家を紹介します。
- ④福岡の美術・文化関係者（美術作家・デザイナー・建築家・パフォーマー・研究者等）とアジア作家とが協働する場をつくりだし、継続的な交流と国際的な活動への機会を与え、福岡発の文化振興をはかります。



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027

福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル 7・8 階

TEL: 092-263-1100 FAX: 092-263-1105

URL: <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>



- ▶開催概要
- | | |
|--------------|---|
| 1 展覧会名称 | 第5回福岡アジア美術トリエンナーレ 2014
(略称：第5回福岡トリエンナーレ、FT5) |
| 2 会 期 | 2014 (平成 26) 年 9 月 6 日 (土) ～ 11 月 30 日 (日) |
| 3 会 場 | 福岡アジア美術館全館ほか周辺地域 |
| 4 主 催 | 第5回福岡アジア美術トリエンナーレ実行委員会
(福岡アジア美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送 ほか) |
| 5 参加作家 | 36 人・組 (21 か国・地域) |
| 6 観 覧 料 (予定) | 一般 1,500 (1,300) 円 高大生 1,000 (800) 円 中学生以下無料
* () 内は前売、20 人以上の団体料金。 |

▶テーマ

未来世界のパノラマ — ほころぶ時代のなかへ

Panorama of The NextWorld: Breaking Out into the Future

迷宮の向こうに未来がある。ほころび、また花咲く世界に向けて。

◆「未来」——成長する時間

ここでいう未来とは、私たちが何もしなくてもやって来るような、淡々と進行する機械的な時間概念ではありません。私たちの認識やテクノロジー、環境などの大きな変化によって、今の世界がひとつ古い時代へと押しやられるような、進化論的な飛躍をともなって成長する時間です。それゆえ、未来の世界がいつやって来るのかは誰にもわかりません。しかし、その萌芽はこの世界のいたるところにひそんでいて、私たちは気づいていないか、あるいは何かによって隠されているだけなのかもしれません。

◆「未来世界のパノラマ」——拡張していくビジョン

私たちがリアルに感じる未来は、もはやユートピアのような理想に満ちた世界像ではないでしょう。現実の世界は、政治・経済・宗教などのさまざまなレベルで交渉不能な価値観が対立し、科学やテクノロジーの革新的な知見がさらなる謎を深めています。未来世界とは、そうした出口の見えない迷宮のような現実のすぐ近くに広がっていて、私たちの到着を待っているのです。未来世界のパノラマとは、閉ざされ、固定化された、独善的なビジョンではなく、複眼的につながり、逸脱し、果てしなく拡張していくビジョンなのです。

◆「ほころび」——新しい世界の萌芽

今の私たちにとって必要なのは、迷宮のような現実から受ける圧力や限界、あるいはユートピアのような心地よい虚像のなかで思考停止することではなく、それらの矛盾やほころび (= 破綻) を察知し、新しい世界像 (イメージ、概念、関係性) へと変換するような想像力ではないでしょうか。今回の福岡トリエンナーレでは、こうした未来志向のパノラマ的想像力をもったアーティストたちを紹介するとともに、彼ら／彼女らのビジョンがつながり、拡張していく本展が、新しい世界のほころび (= 誕生) を予感させるものになることを願っています。

▶構成

(1) 展示 (絵画、彫刻、映像、インスタレーション等の展示)

(2) 特別部門「モンゴル画の新時代」

過去 5 年間でめざましい発展をした地域、ジャンル等を重点的に紹介。今回は、伝統的な技術を用いながらも現代的・都市的な主題によって大きく変容しつつあるモンゴル画を、10 人程度の若手作家の作品で紹介する。

(3) 交流プログラム

招聘作家による市民との美術交流イベント

例：公開制作、館外展示、ワークショップ、パフォーマンス、トーク

▶作家選考

アジア美術館の調査と館内の会議で決定。





★交流プログラムに参加するアーティスト

1	ハイダール・アリ・ジャン	Haider Ali Jan	男性
2 ★	メヘリーン・ムルターザ	Mehreen Murtaza	女性
3 ★	プラバカル・パーチュプテ	Prabhakar Pachpute	男性
4	ラティーシュ T.	Ratheesh T.	男性
5 ★	ローヒニー・ディヴェーシャル	Rohini Devasher	女性
6	プラディープ・タラワッタ	Pradeep Thalawatta	男性
7 ★	スニール・シグデル	Sunil Sigdel	男性
8	デチェン・ロデル	Dechen Roder	女性
9 ★	ペマ・ツェリン	Pema Tshering	男性
10 ★	コビール・アフメッド・マスム・チスティ	Kabir Ahmed Masum Chisty	男性
11 ★	ジハン・カリム	Zihan Karim	男性
12 ★	ミン・ティエン・ソン	Min Thein Sung	男性
13	ター・モウ・ナイン	The Maw Naing	男性
14	チュラヤーンノン・シリボン	Chulayarnnon Siriphol	男性
15	シャーマン・オン	Sherman Ong	男性
16 ★	ファンク	PHUNK	男性
17	ブンポール・ポティザン	Bounpaul Phothyzan	男性
18 ★	アニダ・ユー・アリ	Anida Yoeu Ali	女性
19	スタジオ・レボルト、菅野将弘、コーサル・キエフ	Studio Revolt, Sugano Masahiro, Kosal Khiev	—
20	グエン・チン・ティ	Nguyen Trinh Thi	女性
21	ファン・クアン	Phan Quang	男性
22 ★	プリラ・タニア	Prilla Tania	女性
23	モハンマド・アリノミン・オムラリ	Muhammad Alinormin Hj Omarali	男性
24 ★	キリ・ダレナ	Kiri Dalena	女性
25	ハグヴァドルジ・エンフバット	Lkhagvadorj Enkhbat	男性
26 ★	ナンディン・エルデネ・バドゥザグド	Nandin-Erdene Budzagd	女性
27 ★	ブー・ホア (ト樺)	Bu Hua	女性
28 ★	ルー・ヤン (陸揚)	Lu Yang	女性
29 ★	ヤン・ヨンリアン (楊泳梁)	Yang Yongliang	男性
30	チェン・イージェ (陳怡潔)	Agi Chen	女性
31	ユエン・グァンミン (袁廣鳴)	Yuan Goang-ming	男性
32 ★	チェ・ジョンファ	Choi Jeonghwa	男性
33	ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ	Moon Kyungwon & Jeon Joonho	女性・男性
34 ★	WATAGATA 福岡釜山アートネットワーク	WATAGATA Arts Network	—
35 ★	あのラボ	anno lab	—
36 ★	よしながこうたく	Yoshinaga Koutaku	男性



*作品写真はすべて参考

1 ハイダール・アリ・ジャン

【男性】

- 1983 年生まれ、ラホール（パキスタン）在住
- 映像
- 主な国際展 なし



2 メヘリン・ムルターザ

【女性】

- 1986 年生まれ、ラホール（パキスタン）在住
- 写真、インスタレーション
- 主な国際展 なし

交流プログラム



3 プラバーカル・パーチュプター

【男性】

- 1986 年生まれ、ムンバイ（インド）在住
- 絵画
- 主な国際展
サンパウロ・ビエンナーレ（2014）

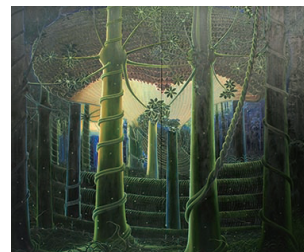
交流プログラム



4 ラティッシュ T.

【男性】

- 1980 年生まれ、トリヴァンドラム（インド）在住
- 絵画
- 主な国際展
コーチ・ビエンナーレ（2012）



5 ローヒニー・ディヴェーシャル

【女性】

- 1978 年生まれ、ニューデリー（インド）在住
- 絵画、映像
- 主な国際展
コーチ・ビエンナーレ（2012）

交流プログラム



6 プラディープ・タラワッタ

【男性】

- 1979 年生まれ、ジャフナ、コロンボ（スリランカ）在住
- 写真
- 主な国際展
コロンボ・ビエンナーレ（2012・2014）



7 スニール・シゲデル

【男性】

- 1978 年生まれ、ボカラ（ネパール）在住
- 彫刻、パフォーマンス
- 主な国際展 なし

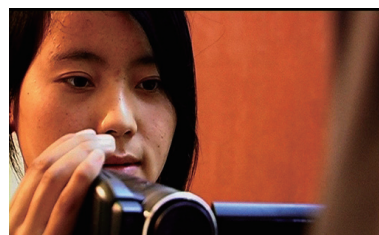
交流プログラム



8 デチェン・ロデル

【女性】

- 1980 年生まれ、ティンブー（ブータン）在住
- 映像
- 主な国際展 なし





*作品写真はすべて参考

9

ペマ・ツェリン Pema Tshering

【男性】

- 1985年生まれ、ティンブー（ブータン）在住
- 映像
- 主な国際展
バンガラデシュ・ビエンナーレ
(2012)

交流プログラム



10

コビール・アフメッド・マスム・チスティー Kabir Ahmed Masum Chisty

【男性】

- 1976年生まれ、ナラヤンゴンジ（バングラデシュ）在住
- 映像
- 主な国際展
ヴェネチア・ビエンナーレ[バングラデシュ館] (2011)
バングラデシュ・ビエンナーレ (2010)

交流プログラム



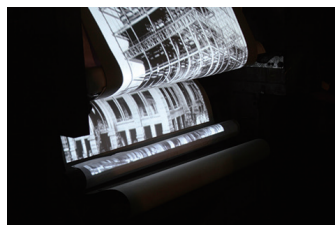
11

ジハン・カリム Zihan Karim

【男性】

- 1984年生まれ、チッタゴン（バングラデシュ）在住。
- 映像
- 主な国際展
バングラデシュ・ビエンナーレ
(2012)

交流プログラム



12

ミン・ティエン・ソン Min Thein Sung

【男性】

- 1978年生まれ、ヤンゴン（ミャンマー）在住
- インスタレーション
- 主な国際展
レユニオン・ビエンナーレ (2011)

交流プログラム



13

ター・モウ・ナイン The Maw Naing

【男性】

- 1971年生まれ、ヤンゴン（ミャンマー）在住
- 映像
- 主な国際展 なし



14

チュラヤーンノン・シリポン Chulayarnnon Siriphol

【男性】

- 1986年生まれ、バンコク（タイ）在住
- 映像
- 主な国際展
恵比寿映像祭 (2014)



15

シャーマン・オン Sherman Ong

【男性】

- 1971年生まれ、シンガポール在住
- 映像
- 主な国際展
アジア・パシフィック・トリエンナーレ (2013)
東京国際映画祭 (2010)



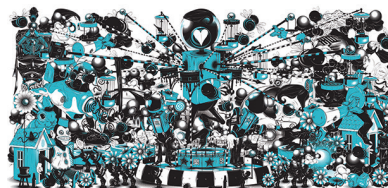
16

ファンク PHUNK

【男性】

- 1994年発足
- デザイン
- 主な国際展
光州デザイン・ビエンナーレ (2005)
ヴェネチア・ビエンナーレ (2011)

交流プログラム





*作品写真はすべて参考

17 ブンポール・ポータィザン 【男性】 Bounpaul Phothyzan

- 1979年生まれ、ピエンチャン（ラオス）在住
- 映像
- 主な国際展
シンガポール・ビエンナーレ（2013）



18 アニダ・ユー・アリ 【女性】 Anida Yoeu Ali

- 1974年生まれ、プノンペン（カンボジア）在住
- パフォーマンス、インスタレーション、写真
- 主な国際展 なし

交流プログラム



19 スタジオ・レボルト、菅野将弘、コーサル・キエフ 【男性】 Studio Revolt, Sugano Masahiro, Kosal Khiev

- 2011年発足
- パフォーマンス、映像
- 主な国際展
コーサル・キエフ/ロンドン
2012 フェスティバル（2012）



20 グエン・チン・ティ 【女性】 Nguyen Trinh Thi

- 1973年生まれ、ハノイ（ベトナム）在住
- インスタレーション
- 主な国際展
シンガポール・ビエンナーレ（2013）
ジャカルタ・ビエンナーレ（2013）



21 ファン・クアン 【男性】 Phan Quang

- 1976年生まれ、ホーチミン（ベトナム）在住
- インスタレーション
- 主な国際展 なし



22 プリラ・タニア 【女性】 Prilla Tania

- 1979年生まれ、バンドン（インドネシア）在住
- インスタレーション
- 主な国際展
ジョグジャ・ビエンナーレ（2013）

交流プログラム



23 モハンマド・アリノミン・オムラリ 【男性】 Muhammad Alinormin Hj Omarali

- 1979年生まれ、バンドルスリプガワン（ブルネイ）在住
- インスタレーション
- 主な国際展 なし



24 キリ・ダレナ 【女性】 Kiri Dalena

- 1975年生まれ、マニラ（フィリピン）在住
- 映像
- 主な国際展
シンガポール・ビエンナーレ（2013）
ジャカルタ・ビエンナーレ（2013）

交流プログラム



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階
TEL: 092-263-1100 FAX: 092-263-1105



*作品写真はすべて参考

25 ハグヴァドルジ・エンフバット 【男性】 Lkhagvadorj Enkhbat

- 1987年生まれ、ウランバートル（モンゴル）在住
- 絵画
- 主な国際展 なし



26 ナンディン・エルデネ・バドゥザグド 【女性】 Nandin-Erdene Budzagd

- 1981年生まれ、ウランバートル（モンゴル）在住
- 絵画
- 主な国際展 なし

交流プログラム



27 ブー・ホア（ト樺） 【女性】 Bu Hua

- 1973年生まれ、北京（中国）在住
- 映像
- 主な国際展
上海ビエンナーレ（2008）
釜山ビエンナーレ（2008）

交流プログラム



28 ルー・ヤン（陸揚） 【女性】 Lu Yang

- 1984年生まれ、上海（中国）在住
- プロジェクト、インスタレーション
- 主な国際展
上海ビエンナーレ（2012）
リヨン・ビエンナーレ（2013）

交流プログラム



29 ヤン・ヨンリアン（楊泳梁） 【男性】 Yang Yongliang

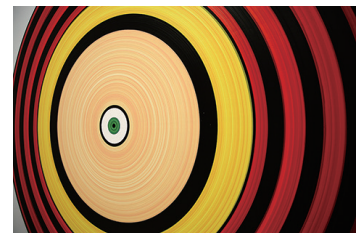
- 1980年生まれ、上海（中国）在住
- インスタレーション
- 主な国際展 モスクワ・ビエンナーレ（2013）

交流プログラム



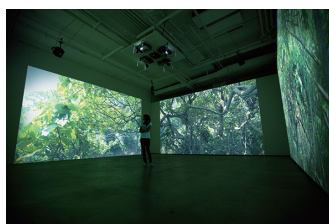
30 チェン・イージエ（陳怡潔） 【女性】 Agi Chen

- 1980年生まれ、台北（台湾）在住
- インスタレーション
- 主な国際展
關渡ビエンナーレ（2012）
台湾ビエンナーレ（2008）



31 ユエン・ガンミン（袁廣鳴） 【男性】 Yuan Goang-ming

- 1965年生まれ、台北（台湾）在住
- 映像
- 主な国際展
シンガポール・ビエンナーレ（2008）
広州トリエンナーレ（2005）
リヴァプール・ビエンナーレ（2004）
ヴェネチア・ビエンナーレ[台湾館]（2003）
釜山ビエンナーレ（2002）
台北ビエンナーレ（1998, 2002）
光州ビエンナーレ（1995, 2002）



32 チェ・ジョンファ 【男性】 Choi Jeonghwa

- 1961年生まれ、ソウル（韓国）在住
- インスタレーション
- 主な国際展
瀬戸内国際芸術祭（2013）
シドニー・ビエンナーレ（2011）
光州ビエンナーレ（2006）
リヴァプール・ビエンナーレ（2004）
リヨン・ビエンナーレ（2003）
横浜トリエンナーレ（2002）

交流プログラム





*作品写真はすべて参考

33 ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ Moon Kyungwon & Jeon Joonho 【男性・女性】

- ともに 1969 年生まれ、(ムン)ソウル在住、(チョン)釜山在住
- 映像
- 主な国際展
ドクメンタ (カッセル、ドイツ) (2013)
シンガポール・ビエンナーレ (2013)



34 WATAGATA 福岡釜山アートネットワーク WATAGATA Arts Network

- 2010 年発足
- 企画
- 主な国際展 なし

交流プログラム



35 あのラボ anno lab

- 2012 年発足
- メディアアート
- 主な国際展 なし

交流プログラム



36 よしながこうたく Yoshinaga Koutaku 【男性】

- 1979 年生まれ、福岡在住
- 絵本
- 主な国際展 なし

交流プログラム



特別部門

モンゴル画の新時代

— 伝統から現代へ —

New Era of Mongolian Painting

— From Tradition to the Modernity —

「モンゴル画」とは、元々は岩絵具で描く伝統的な絵画形式で、仏教絵画や、20 世紀以降は、遊牧民族の生活や祭礼が描かれていました。モンゴルでは、1992 年の民主化以降、人々は、急速な市場経済化や貧富の格差、政治腐敗などに直面しますが、若いモンゴル画の作家たちは、そうした社会の状況、都市の人々の日常や内面、政治風刺といった現代的なテーマを、伝統的なモンゴル画の技法やモチーフを応用して描くようになりました。その作品は、これまでの「モンゴル」のイメージをくつがえす、クールでキュートなもの。本展は、その魅力を日本で初めて紹介する展覧会です。



G. ゲレルフー「欲望」2012 年 / G. Gerelkhua "Lust", 2012



L. ホンゴルツォル「魚」2013 年 / L. Khongorzul "Fish", 2013



■アジア美術展の沿革

福岡市美術館

- ▶ **1979年 第1回アジア美術展**
「アジア美術展第1部 近代アジアの美術 ―インド・中国・日本―」
アジア美術展全体の導入部。インド、中国、日本の近代美術の歩みを辿った。
3カ国 230作家 253点
- ▶ **1980年 第1回アジア美術展**
「アジア美術展第2部 アジア現代美術展」
関連事業：シンポジウム開催
アジア全域の現代美術を包括的に紹介した世界最初のアジア現代美術展。
13カ国／参加作家 471人／展示作品 471点
(この段階では本展の継続が未定で、名称に「第1回」は付されていないが、継続決定後、第1部・第2部を併せて「第1回展」と呼ぶことになった)
- ▶ **1985年 第2回アジア美術展**
特別部門：「パリの美術」
関連事業：シンポジウム、アジア・フェスティバル開催
アジアの若い世代の作家を取り上げた。
13カ国／参加作家 268人／展示作品 368点
- ▶ **1989年 第3回アジア美術展**
テーマ：日常のなかの象徴性
関連事業：版画ワークショップ、アジア・フェスティバル開催
アジアに広く見られる象徴的・物語的表現を取り上げた。
15カ国／参加作家 104人／展示作品 233点
- ▶ **1994年 第4回アジア美術展**
テーマ：時代を見つめる眼
特別部門：「リキシャ・ペインティング〜バングラデシュのトラフィック・アート」
関連事業：ワークショップ開催
80年代後半からアジアに広がった社会的テーマを扱う作品を取り上げた。
18カ国／参加作家 48人／展示作品 123点 (ほか滞在制作作品 25点)

福岡アジア美術館

- ▶ **1999年 第1回福岡アジア美術トリエンナーレ 1999**
(第5回アジア美術展)
テーマ：コミュニケーション〜希望への回路
(Communication: Channels for Hope)
福岡アジア美術館の開館記念展として、展示、美術交流の2部門を柱として開催。
【参加・交流】【共同体】【都市】【メディア】の4つをキーワードとし、多文化・社会に生きる人々のコミュニケーション手段となり、共生への希望を与える作品に焦点を当てた。
21カ国・地域／参加作家 55人・組／展示作品 120点
(うち交流プログラム参加作家 23人・組)
- ▶ **2002年 第2回福岡アジア美術トリエンナーレ 2002**
テーマ：語る手 結ぶ手 (Imagined Workshop)
手によって喚起される確かな存在感をとどめた作品、職人や美術作家との共同制作（コラボレーション）によって生まれた作品に焦点を当てた。
21カ国・地域／参加作家 37人・組／展示作品 122点
(うち交流プログラム参加作家 19人・組)
- ▶ **2005年 第3回福岡アジア美術トリエンナーレ 2005**
テーマ：多重世界 (Parallel Realities: Asian Art Now)
グローバル化によって異質な文化や価値観が出会い、衝突し、あるいはお互いに関わることもないまま共存している状況に焦点をあて、特に都市の大衆文化のなかで育ってきた若い世代のアーティストを中心に紹介した。
21カ国・地域／参加作家 50組／展示作品 130点
(うち交流プログラム参加作家 20組)
- ▶ **2009年 第4回福岡アジア美術トリエンナーレ 2009**
テーマ：共再生 明日をつくるために
(LIVE and LET LIVE Creators of Tomorrow)
新しい「共生」のシステムを生み出す、創造的な「再生」のありかたを探究した、アジアの新進美術作家を厳選して紹介するとともに、福岡アジア美術館 10周年を記念して、国際舞台で活躍するアジアの美術作家をあわせて紹介することで、アジア美術の10年間の発展を振り返った。
21カ国・地域／参加作家 43組／展示作品 87点
(うち交流プログラム参加作家 20組)

■問い合わせ・資料請求

展覧会、関連事業についてのお問い合わせ、資料請求等につきましては、下記にご連絡ください。

福岡アジア美術館学芸課交流係【山木・蒲池】

〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル 7・8 階
TEL: 092-263-1103 / FAX: 092-263-1105 / E-MAIL: ft@faam.ajibi.jp
FT5 ウェブサイト <http://www.fukuokatriennale.ajibi.jp/>
facebook Fukuoka Triennale / 福岡トリエンナーレ

